

中期目標の達成状況に関する評価結果

京都工芸繊維大学

平成21年3月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

I 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育に関する目標」に係る中期目標（5項目）のうち、1項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 教育プログラムの内容と方法

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育プログラムの内容と方法」の下に定められている具体的な目標（8項目）のうち、3項目が「良好」、5項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 実施体制、学習環境の整備

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「実施体制、学習環境の整備」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(3) 学生支援

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「学生支援」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(4) 入学試験と入学前学生への教育支援

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「入学試験と入学前学生への教育支援」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断

した。

(5) 地域社会への教育貢献

[評価結果] 中期目標の達成状況が良好である

[判断理由] 「地域社会への教育貢献」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期目標「異分野、境界領域等の知識の幅を広げるための科目の提供」について、平成18年度の教育研究組織の改組に伴い、履修上の区分である「学域」という概念を導入したことは、深さと広がり、専門性と基礎知識、異分野交流の促進が有機的に実施されている点や、特色ある大学教育支援プログラム等の採択や学生の国際学会等での受賞等という明確な教育効果が現れている点で、優れていると判断される。
- 中期計画で「学部教育、大学院教育などの教育全体について、総合的な機能を有するセンターとして「総合教育センター」を設置する」としていることについて、学部教育、大学院教育等の教育全体に関する企画・立案・実施を行う総合教育センターを設置したことは、多くの活動実績が得られ、教育関連事業を迅速かつ機動的に実施しているという点で、優れていると判断される。
- 中期目標「学生支援センター」の設置について、学生支援センターを設置し、学生からの相談にきめ細かに対応するために学生支援システムを構築したことは、各窓口が有機的に連携し、学生の支援を総合的に行う体制として機能している点で、優れていると判断される。
- 中期目標「特色ある学内共同利用施設の公開と市民講座・シンポジウム等の開催」について、特色あるセンター等（美術工芸資料館、ショウジョウバエ遺伝資源センター、環境科学センター等）において、その特色を活かし市民に開かれた教育活動を展開していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「人間教養科目として、「科学と芸術」、「京都の伝統と先端」、「科学技術と環境」、「科学技術と倫理」などの科目群を整備し、提供する」としていることについて、科学と芸術、京の伝統と先端、科学技術と人間環境、科学技術と倫理、ものづくりと技術戦略の5つの科目群で構成される人間教養科目を体系化して提供していることは、歴史都市京都を背景とした感性の育成、さらに環境共生マインド等京都工芸繊維大学の個性的なマインド（KIT マインド）の醸成を促すという点で、特色ある取組と判断される。
- 中期計画で「学科を超えて履修できる専門交流科目群を提供する」としていること

について、学科を超えて履修できる専門交流科目群を提供していることは、異分野、境界領域等の知識へ幅を広げることを促進しているという点で、特色ある取組と判断される。

- 中期目標「国際的に通用する技術者教育プログラムの提供」について、日本技術者教育認定機構（JABEE）による教育基準や国際教育推奨基準に沿った教育プログラムを提供していることや、建築教育認定制度（UNESCO-UIA）標準の建築家養成カリキュラムを整備していることは、国際的に通用する技術者教育プログラムを拡充したという点で、特色ある取組と判断される。
- 中期目標「学習環境の整備」について、キャンパスアメニティ整備に授業の実習を導入するなどの独自の事業を展開していることは、特色ある取組と判断される。
- 中期目標「生涯学習・リフレッシュ教育の推進」について、現代的教育ニーズ取組支援プログラム等採択の契機となった一般市民向け講座を京都商工会議所や京丹後市と連携して実施していることは、特色ある取組であると判断される。

II 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 特色ある研究の重点的推進

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「特色ある研究の重点的推進」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 研究実施体制等の整備

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「研究実施体制等の整備」の下に定められている具体的な目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期目標「重点領域研究の推進」について、重点領域研究プロジェクトを推進することにより、当該プロジェクトの参加教員を中心にエルンスト・ルスカ賞や文部科学大臣賞の受賞や外部資金獲得等の成果が得られ、内閣府の調査結果等において化学・材料・学際・その他工学分野の発表論文数では全国立大学中 20 位以内に入るなど、大学全体の研究活動を活性化するなどの波及効果をもたらしたことは、優れていると判断される。
- 中期計画「研究推進本部において、新領域、境界領域、融合領域や重点的に取り組む領域などへ柔軟かつ機動的に対応できる学部、学科、専攻の枠を越えた研究グループを組織する」について、所属組織の枠を越えて設置する「教育研究プロジェクトセンター事業」を開始したことは、「プロジェクト研究員」、「プロジェクト特別研究員」、「特任教員」からなる研究組織の柔構造化を図り、重点領域研究を推進している点で、優れていると判断される。

III その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（3項目）のうち、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 産官（公）学連携の推進及び知的財産の形成

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「産官（公）学連携の推進及び知的財産の形成」の下に定められている具体的な目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(2) 国際交流の推進に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

[判断理由]「国際交流の推進に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(3) 学術情報の集積・発信に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況が良好である

[判断理由]「学術情報の集積・発信に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「良好」であることから判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期目標「全学的・組織的で機動性ある産官（公）学連携の推進」について、地域共同研究センター、大学院ベンチャー・ラボラトリー及びインキュベーションセンターにより構成する産学官連携推進機構を設立したことは、各種産学官連携活動を円滑かつ効率的に行い地域活性化に貢献しているという点で、優れていると判断される。
- 中期目標「国際交流推進体制の構築」及び「教育研究協力事業の重点的推進」について、教育交流では「国際基幹技術者養成プログラム開発事業」、研究交流では「次世代型繊維科学研究ネオ・ファイバーテクノロジーの学術基盤形成事業」を中心として積極的に活動したことにより、シンポジウム開催や教職員・学生の派遣等といった活発な交流実績が得られ、大学院生による国際学会でも多くの受賞につながっていることは、優れていると判断される。
- 中期目標「学術情報集積・発信機能の整備」について、美術工芸資料館において、19世紀以来のポスターコレクション、建築関連資料、工芸品を収集し、広く世界に発信していること、またショウジョウバエ遺伝資源センターにおいて、ナショナルバイオリソース事業による世界一の系統数を維持し世界に配布していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期目標「教育研究協力事業の重点的推進」について、「国際基幹技術者養成プログラム開発事業」により日本人学生の在外教育方法の開発を行ったことは、特色ある取組であると判断される。